Pure Pacific 純パ No.188 Nov.2016

純パの会会報『純パ』第188号　2016年11月25日発行／発行：純パの会

ファイターズ日本一とパ・リーグの時代

影山　一義

今年の日本シリーズも終わってみれば、最初こそ連敗したものの、そこからファイターズが、まさに今年の戦いぶりを象徴するような試合運びでの4連勝で、無事に10年ぶり3度目となる日本一に輝いた。パ・リーグのチームとしてもイーグルス、ホークスの2連覇に次いで、4年連続での日本シリーズ勝利でもある。

10年ひと昔とはよく言うが、前回日本一になった2006年以降、連覇した07年、そして09年、12年とファイターズは3度パ・リーグを制して、日本シリーズへ進んだのだが、いずれもセ・リーグのチームに敗れていた。その間、ファイターズと日本シリーズ出場のないバファローズ以外の4チームは、どのチームも日本シリーズ不敗だったので、今回のファイターズの優勝は、とりわけ純パのファイターズファンにとって、感慨ひとしおなのだろうと思っている。

ところで、日本シリーズ終了の翌日、純パの会員でもあるスポーツ報知の蛭間豊章さんが、フェイスブックで見た場合に、セ・リーグがジャイアンツV9のあった60年代と70年代に2度の勝ち越し、あとの4度は5勝5敗のタイなのであるが、実はパ・リーグは80年代(89年)と2000年代(09年)の2度、あと1勝で勝ち越しというところで阻まれていたのだという。

それが2010年代もあと3年を残して、パのチームが6勝を挙げてセ・リーグに初めて勝ち越したということは、今回、ファイターズが優勝したこと以上にパ・リーグファンとして、素直に喜んでいいと思うのだ。

かつて、先輩の会員たちが口々に「21世紀はパ・リーグの時代にしたい」とおっしゃっていたことを思い出す。まずは、優勝回数でセ・リーグに追いつき、追い越すこと(※)がいよいよ視界に入ってきたことで、改めてパ・リーグの時代となった21世紀のまっただ中にいることを、強く感じている。

(※なお純パの会が誕生した1982年以降の日本シリーズに限ればパ21勝、セ14勝で、すでに勝ち越しています)

パの時代 初の勝ち越し

10年から6勝1敗

記録メモ

▼パ初のディケード勝ち越し

日本ハムが06年以来、10年ぶり3度目の日本シリーズ優勝。これでパのチームは13年の楽天から、リーグ最多タイの4年連続制覇となった。

第1回のシリーズをロッテの前身・毎日が制した後、翌年からはセのチームが5年連続でV。通算の優勝回数でパがセを上回ったのは、第1回の50年が最初で最後だ。10年ごとに区切った年代(ディケード)でも、パが5度のVで迎えた89年の近鉄、09年の日本ハムが、ともに巨人に敗れて勝ち越しを阻まれている。それが2010年代に入ってからパの優勝は、今年の日本ハムで6度目。対してセは12年巨人の1度だけ。初めてパのディケード勝ち越しとなり、通算の優勝回数もセ35－32パと、その差を66年(セ10－7パ)以来、50年ぶりに3と縮めた。

リーグ別のシリーズ4年以上連続V

連続年	リーグ	期間（チームと優勝回数）
9	セ	65～73年（巨人9）
5	パ	51～55年（毎日4、中日）
4	セ	56～59年（西鉄3、南海）
4	パ	74～77年（ロッテ、阪急3）
4	セ	78～81年（ヤ、広2、巨）
4	パ	03～06年（ダ、西、ロ、日）
4	パ	13～16年（楽、ソ2、日）

セ・パの年代別シリーズ優勝回数

年代	【セ】－【パ】
1950	5－5
60	(13)8－2(7)
70	(19)6－4(11)
80	(24)5－5(16)
90	(29)5－5(21)
2000	(34)5－5(26)
10	(35)1－6(32)

【注】カッコ内は通算、白ヌキは勝ち越し。

●10月30日付「スポーツ報知」紙面より